

平成28年度第4回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成29年2月16日（木）午後2時

場所：犬山市役所503会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育委員 委員長 村上恵美子 委員 高木浩行 委員 千葉桂子
 委員 紀藤統一 委員 田中秀佳 委員 奥村康祐
 教育長 奥村英俊

アドバイザー 犬山南高等学校長 木和田晋弘

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課 松田課長 井出課長補佐 渡邊主査

【教育部】

吉野教育部長 小島子ども・子育て監

学校教育課 武藤課長 勝村主幹兼指導室長 田中課長補佐

記録者 井出修平 渡邊 樹

傍聴者 1名

◆次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
(1) 大綱の策定について
(2) 犬山市教育委員会基本条例について
(3) 平成29年度以降の協議事項について
- 4 自由討議
- 5 その他
- 6 閉会

◆会議要旨

議題(1)大綱の策定について

基本的な内容については、今回示された案で確定とし、表紙を含めたデザイン、一部の文言については、事務局に一任となった。

【主な意見】

- ・「愛情の量と質を高めて」について、「量を高める」という表現は、日本語として適切か。
- ・「自然に感謝し敬う心や、和と礼を・・・」の部分は、「自然に感謝し、敬う心や和と礼を」とした方がよいのでは。
- ・「敬う心」は「自然」にかかっている。

議題(2)犬山市教育委員会基本条例について

条例案については、前回会議で協議を完了し、定例教育委員会で微調整をおこなった上で、パブリックコメントを実施したが、意見等の提出はなかった。

例規審査会での指摘を踏まえて修正を行い、3月議会に上程する予定。

【主な意見】

- ・ 今後は、この条例の内容をどのように具現化していくかが重要。

議題(3) 平成29年度以降の協議事項について

市長から、9点にわたる協議事項の提案があった。事務局を含めて精査しながら、「どれを」「どのような順番で」取り扱っていくのか検討する必要がある。

【主な意見】

- ・ 「授業改善」については、まずは、先生方に良い授業をたくさん見ていただくことが先決。
- ・ 教員の多忙化に対しては、人的支援が必要。
- ・ 学校の統廃合の検討も必要では。
- ・ 小規模校にも魅力があるので、人口の現状に見合った施設・設備の維持の方法を検討する必要がある。
- ・ 「文化・スポーツ」という大きなテーマを掲げてやっていく必要があるのでは。

◆会議録

司 会 (江口経営部長)	お待たせいたしました。 みなさん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
司 会	お忙しい中、定刻までにご参集いただきまして、ありがとうございます。ただいまから平成28年度第4回の犬山市総合教育会議を始めさせていただきます。よろしくお願いたします。 本会議につきましては、公開とさせていただいております。併せてインターネット映像配信サービスのユーストリームでの中継を行わせていただいておりますので、傍聴人の皆様もご了承ください。お願いたします。 それでははじめに山田市長からご挨拶申し上げます。
山田市長	はい。皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	今日は総合教育会議ということで、ご参集いただきまして、ありがとうございます。子どもを取り巻く課題というのは色々ありますけれども、先日も一宮の方で、またいじめに関することが全国的なニュースにもなっていて、改めてこうした課題について私ども犬山市としてもやはりしっかり注意していかなければいけない、という。今までも当然、皆さんも認識してやっただいただいているんですけども、特にこうした点については、命をとにかく、命だけは守るということをもう一度しっかり私たちが肝に銘じなければいけない、ということを感じました。 それからご承知のように新しい学習指導要領の方も方向性と言いますか、だんだん見えて来ていますので、そうしたことも意識しながらこれからの一来年度の振興基本計画の方も取り組んでいかなければいけない、と思っておりますけれども、いずれにしてもこれまで取り組んできた教育委員会の基本条例であるとか、或いは大綱の策定であるとか、そういったことがこれからの犬山の「ひとづくり」の重要なものさしになって行くな、ということで、また皆さんと一緒にしっかりと取り組んでいきたい、と思っておりますのでまたご指導をお願いしたいということを申し上げまして、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。 それでは、今日はよろしくお願いたします。
司 会	それでは続きまして、村上教育委員長の方からもよろしくお願いたします。
村上委員長	みなさま、こんにちは。

出席者	こんにちは。
村上委員長	<p>まず、はじめに若干ご報告をさせていただきたいと思います。先日、市議会、民生文教委員会委員長の柴田先生—今日もおいでですが—をはじめ、各委員のみなさまと教育委員会で意見交換を行いました。短い時間ではありましたが、忌憚のない意見交換ができ、有意義なものとなりました。今後も折に触れ、このような機会を設けるということで、一致いたしました。</p> <p>また、先日、奈良県へ小中一貫校の視察に行つて参りました。地理的な条件とか地域の特性で一貫教育が円滑に行われておりました。学校の先生方の小中一貫教育への理解、共同体制が不可欠であることなど、校長先生から伺つて参りましたが、課題—9年間の指導のあり方、教員の多忙化、こういったこともあるということでした。奈良県もやはり地理的な事情で全てが小中一貫校ではなくて、小中連携をしなければいけないところもありますということで、同じような悩みをもっているな、という感じはいたしました。</p> <p>また、昨日、教育委員会会議がございました。規則改正などの議案、それからあとは教育委員会子ども未来課から、子どもたちやお母さん方への支援に対する新規の取組み予定などもお聞きしております。また、小中学校のいじめなどについても報告を受けておりますが、毎回、教育委員会の方からは、質問や意見が非常に多く、市長がおっしゃいました—宮市でありました事案についても若干触れさせていただきました。前途ある子が自ら命を絶つということは、保護者の方には言うまでもなく、学校関係者、他の生徒、これらの人にとってこの上ない悲しい出来事です。「市教委や学校の連携のとり方、情報の共有をしっかりと行ってください」という危機管理などに対しても事務局の方へお願いをいたしました。また学校が信頼を失うことがないように、特に色々な事件—中学三年生という非常に大切な時期だったものですから、生徒へのケア、保護者への対応など今一度、気を引き締めてほしいので、お願いをいたしました。今年度は4月の犬山市いじめ防止基本方針の策定それから総合教育会議におきましては、本日議題になっております教育委員会基本条例案、それから教育大綱がある程度形になったということは一定の成果が出たものと安堵しております。今後はそれらの遵守、それから具現化に向け教育委員会会議でさらに協議していきたいと思っております。</p> <p>また、市長さんには、来年度教育関係の色々な予算をお考えいただいているということですので、この場をお借りしお礼を申し上げます。</p> <p>最後になりましたが、3月1日には教育委員が犬山高校、それから犬山南高校の卒業証書授与式にご招待をいただいておりますので、また伺わせていただいて、犬山の子の元気の姿を見せていただきたいと思いますと思っております。よろしく申し上げます。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日はアドバイザーといたしまして犬山南高校の木和田校長先生にご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の資料の確認をさせていただきます。本日の次第A4のものが1枚、それからこの会議の名簿A4のものが1枚ございます。それから資料1としまして教育大綱の案ということで、A3の裏表のもの。それから資料2といたしまして、基本条例案ということでA4でホチキス留めのもので6ページまでございます。よろしかったでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、議事につきましては山田市長に進行をお願いいたします。</p>

山田市長	<p>はい。では、私の方で進行をさせていただきたいと思います。</p> <p>議題が3つございます。1議題毎にまず、事務局の方から説明を受けて、その都度委員間で協議をして進めていくという流れでいきますが、アドバイザーの先生には議員間の討議が終わった後にご意見をうかがう機会を設けますので、その時にまたお気づきの点があればご意見をいただきたいということで、お願いをさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、まず議題の1ですが、「大綱の策定について」ということで、事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい。それでは、よろしく申し上げます。</p> <p>大綱の策定につきまして、説明をさせていただきます。着座にて説明をさせていただきます。</p> <p>はじめに前回の会議以降の経過について申し上げます。前回、10月28日に開催致しました第3回総合教育会議でいただきましたご意見を踏まえて大綱の案を修正いたしまして11月の定例教育委員会でご提示をさせていただきました。さらにそこでいただきましたご意見を踏まえて修正を行い、12月の定例教育委員会でご確認いただきました。その後12月から1月にかけて、市内の小中学校の教職員の皆様から大綱に関するご意見を伺いました。また、市の広報いぬやま2月1日号—私が今、手に持っているものですが、こちらの記事におきまして、大綱に関する特集を組みまして、広く市民の皆様に大綱の素案についてご案内をさせていただくと共にホームページでも公開をさせていただきました。今のところ特段のご意見がなかったという状況でございます。加えまして市議会の方でも1月13日に全員協議会がありました折に素案をご提示し、内容をご説明いたしました。この時に大綱の位置づけ、そして策定後の推進体制、この2点について質疑がございました。</p> <p>それでは今回の案につきまして説明をさせていただきます。お手元の方によりしくお願いいたします。今回、ご提示させていただきましたのは、12月の定例教育委員会の案にさらに教職員の方々からいただいた意見を踏まえて修正したものになっております。具体的に申しますと、まず表紙の次にあります1ページ、『はじめに』のところでございます。こちらは教職員の方の意見もございまして、「大綱の位置づけがわからない」ということがございました。そういった点を踏まえまして今年度策定—見直しております「総合計画」、そして来年度見直しを行う「教育振興基本計画」との関連性をこちらに文言として謳いました。</p> <p>続きまして、最終ページ。3の『取組みの方向性』の『学ぶ』、『繋がる』、『創る』それぞれのタイトルでございますが、従前は『①学ぶ』、『②繋がる』、『③創る』と①、②、③という表記がございました。これに伴いまして「番号によって優先順位があるような誤解が発生する可能性がある」というところで番号を削除いたしました。その他は、文言、字句の訂正になっておりますが、まず大綱の中に多く使用されております『とりくみ』という名詞の表記です。これが送り仮名がある『取り組み』とない『取組』が混在しておりましたので、そこを総合計画では『とりくみ』につきましては、送り仮名の『り』がないというふうに統一しておりますので、こちらに揃えさせていただきました。</p> <p>最後に2の『基本理念の実現に向けて』のこの『本気で向き合おう！』の文章のところでございます。</p> <p>1行目に『教育委員会・市』という表記があったところを『市・教育委員会』。続いて『学校・子ども未来園』だったところを『子ども未来園・学校』というふうに順番を入れ替えました。これはイメージ図の方が元々『子ども未来園・学校』、そして『市・</p>

	<p>教育委員会』となっております、そのタイトルに合わせたというところでございます。</p> <p>以上、修正点となっておりますが今回の案を最終案といたしまして、体裁を整えた上で、3月中に完了を目指したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。既に皆さんにはご確認いただいたり、ご意見をいただいた中で、反映できるものについては、反映をさせていただきました。また議会だとか教員からの意見の中でも「これはちょっと考慮した方がいいだろう」という点については、反映した形になっております。今回、今の説明に対して基本的なことは皆さん、調整済みということだと思いますので、「特にどうしてもここだけは」という点があれば、「特に」という点で、ご発言いただきたいと思います。ご発言がある方はお願いしたいと思います。</p>
紀藤委員	すみません。
山田市長	はい。
紀藤委員	先ほど指摘のあった『とりくみ』というので、『取組み』という『み』が付いていますが、『み』はいらいんですね。名詞ということで。例えば『大綱の位置づけ』の2行目の最後の方に『取組み』－『み』がある。いらいんです。
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	はい。今回、今、第5次総合計画の見直しをやっているんですけども、その中の用字の使い方として『み』を入れた『取組み』というものを名詞では使って、『とりくみます』などの場合は『取組み』で全て送り仮名を入れる使い方で統一していますので、今回はそれに倣って統一しているということになります。
紀藤委員	ということは、『み』を…。
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	『み』を入れるという……。
紀藤委員	それで動詞で使うときは『り』も入るという……。
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	そういうことです。
山田市長	文法上どうなのかな。
事務局 (井出企画広報課長 補佐)	はい。すみません。こういう場合の計画書であるとか、言葉の使い方で一定の指針というのが出されておまして、『とりくみ』だけではなくて他の用語の使い方も同じような動詞と名詞がある場合には、統一された使い方でやっております。それを参考に総合計画と今回の大綱についても、『み』を入れる形で名詞は使わせていただいております。
山田市長	よろしいですか。
紀藤委員	はい。
山田市長	他に特にという点があれば。特になければ皆さんとも議論を重ねて来てかなり調整ができてきたと思っておりますので、よろしいですか。
村上委員長	1点いいですか。
山田市長	はい。
村上委員長	この広報をいただいて、こちらの資料よりもポイントがポンと視覚に訴えているので、構成がすごくわかりやすいと思いました。色々な写真等々もあって、こうしてみるとけっこういいものができたかな、というふうには思っています。

	質問でもよろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員長	これはいつまで「素案」になるんですか。
山田市長	3月末までの策定ということですがけれども、ただ今日皆さんとこれで一致できれば、どうなんでしょう。もう正式に……。
事務局 (松田企画広報課長)	それで市長決裁をいただいて、正式にという形になります。
村上委員長	そうですか。
事務局 (松田企画広報課長)	はい。
山田市長	ただ、今、この表紙とかそういう所の若干デザイン的な……。内容ではなくて、デザイン的な部分は少し皆さんにご一任いただいて、事務局の方でできるだけ……。基本的につくりはこれです。ただ、例えば表紙が……。どういう表紙がいいのか、というのもあるって、そんなに大勢に影響があるような所ではないんですが、イメージ的な部分ですがけれども、そういったところを内部的に調整して、決裁をとって正式に配布という形になるわけだね。
事務局 (松田企画広報課長)	はい、そうです。
村上委員長	それで、ホームページに……
事務局 (松田企画広報課長)	もちろんそうです。
山田市長	そうです。そういうことです。
事務局 (松田企画広報課長)	公開します。
村上委員長	それは4月？
事務局 (松田企画広報課長)	当然3月中の策定で、決裁が下りれば4月1日発行という形でさせていただきます。
村上委員長	そういうことですね。はい。ありがとうございます。新年度に向けて色々とはっきりしてくるのでいいです。
山田市長	はい、田中委員。
田中委員	1点だけ。内容に関しましては、前回の会議では、内容等について前回やられたことで尽きているので、そこが直っている・直っていないところがあるのですが、そこは置いておいて、表現として見開きの『基本理念……』のところ、『家庭』のところ、文言上のということですが、『愛情の量と質を高めて……』で、「質を高める」はわかるんですが、「量を高める」という表現は日本語として適切なのか、ということがあります。 それから2点目の『自然に感謝し敬う心や……』前回は訂正して『自然に感謝し』の後の（読）点を削除ということになったんですけども、この場合も『自然に感謝し敬う』ところで、『自然を敬う』というように流れて読んでしまっていて、『自然に感謝し、』で『敬う心や和と礼を……』ということで、こちらの（読）点がなくて、そのまま続けた方が表現としては通じるのかな、というようなことが……。『和と礼』という内容に関わってくるようなところは置いておいて、少し表現上で。
山田市長	『し』の後に（読）点を入れた方がいいということですか。
村上委員長	そうですね。『自然に感謝し、』で『敬う心や……』

田中委員	つながりとしては、そちらの方が。
山田市長	『敬う心や』で、また（読）点か……。
田中委員	無くてもいい。
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	「自然を敬う」という意味であれば、今のこの表現のとおりでいいということですよ。これはどちらかということだと思わなければいけません。
山田市長	『自然』にかかるんですよ。
田中委員	その場合だと『自然を』になって、やはり……
山田市長	文章の流れ的なところなので、『敬う心』というのは、自然にかかるんですが。
紀藤委員	かかるんですか？
田中委員	私は違うように……
千葉委員	私も違うようにというか、そう取りました。
村上委員長	敬うのは自然だけかな？というのが……後に『和と礼』が出てくるので、という解釈もある答えだと思わなければいけません。
山田市長	自然に感謝して敬う心から、和と礼が出てくるわけですよ。
千葉委員	私は豊かな犬山の自然という大きなものがあって、この敬う心というのは、後ろにくつつくのかな、と思ったんですけど。
山田市長	最初は『畏敬』という表現だったんです。『畏敬』が難しすぎるので、『畏敬』というのをばらして書いたことが、こういうことなんですけれども。本当は『畏敬』だったんです。
村上委員長	最後の（読）点を取ってしまえば。読む人によって解釈が……。
山田市長	少しそこはこちらに預けさせてください。
田中委員	はい。
山田市長	あとはよろしいですか。はい。では、基本的には、今、細かい部分でご指摘もいただきましたが、少しデザイン的なことも含めて内容に関わらない部分というか、それ以外のところについては、事務局の方に一任いただいて、最終的には一内容についてはこれで固めさせていただくということで、ご理解をいただきたいというふうに思います。1件目の議題については、これで区切りたいと思わなければいけません。木和田先生の方からもし何かお気づきの点があれば。
木和田校長	これを配ってもいいですか。ちょうど指導要領のわかりやすいものがありました。これをご覧ください。 昨日、新聞の方で一中日新聞と朝日新聞等で第一面に学習指導要領が出ております。またその後で高等学校の方で出ると思わしますので。ちょうど本当にわかりやすい資料として、また時間数も含めた小中高と幼児教育。わかりやすいものがございましたので、ひとまず参考にして。実はこの大綱ですけれども、色々な議論の中で練られてきたことに対して非常に素晴らしいと思わます。そして次期の指導要領がこの大綱の特に3『取組みの方向性』にちりばめられております。例えば『学ぶ』のところの「学びのまち」。「学びの芽」「学びの心」「学びを深め」「学びを広げ」とか。『感動の共有』のところの「学び合い」。それから『学びと遊び』のところの「遊びの中に学びあり」「学びの中に遊びあり」と、そこでもそうです。それから『創る』のところの「すべての学びの基礎となる国語力を高める」これも指導要領の中の目標になっていることが全部散りばめられて、特に幼児教育から生活の中で『見方考え方の基礎をつくり小学校に繋げ、中学校・高等学校で主体的・対話的で深い学び—これはアクティブラーニングなんですけれども、それで学びを深めて社会生活へ広げていく。こ

	<p>れが今回の指導要領の狙いでございまして、それがピッタリこの中に散りばめられて入っております。それで高等学校以降ですけれども、この大綱に沿って「学びまち犬山」の中核になるように努力して参りたいと思いますので、本当に素晴らしい大綱をつくって頂き、ありがとうございます。私からは以上でございます。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>僕は今、ご指摘があったように新しい学習指導要領の概要が明らかになってきたわけですが、また今後の総合教育会議の中のテーマにもなるかな、とは思いますが、やはり現場の教員の多忙化の問題も含めて、新しい教育指導要領をどういうふう現場で活かしていくのかということには、なかなか現場の課題もあるのかな、とは思っていますので、これはまた改めてですが、考え方としては今、木和田先生がおっしゃったように、大綱の中にもその要素が一致してくるところがたくさんあるのかな、と思っていますので、またその指導要領の改訂も見据えて考えていきたいと思っています。</p> <p>それでは議題の2点目の方ですが、「犬山市教育委員会基本条例について」ということで、これは、ほぼ前回の時にも調整がし尽くされて、前回から変わったところはあるのかな？ それは事務局から説明はありますか？</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>それでは資料2「犬山市教育委員会基本条例案について」ご説明します。</p> <p>この条例案につきましては、前回－第3回の総合教育会議以降、定例教育委員会で微調整を行いまして、先月4日から25日までパブリックコメントを実施しましたが、意見等の提出はありませんでした。その後、先月末に開かれました市内の例規審査会において、例えばですが、第5条第1項第3号にあります『その他の教育機関』－こういった言葉などについて、「定義を加えた方がよいのでは」という指摘がありましたので、括弧書きで1文定義を追加したりしましたが、内容に関わるような大きな変更点はございません。</p> <p>それで本日お示ししましたこの案で、今月27日に開催となります3月議会に議案として上程をしていく予定ですので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。事務局の方から説明は終わりました。</p> <p>内容については既に過去の総合教育会議で調整はもう完了しておりますので、今、例規審査の関係での調整・修正等があったということでしたけれども、これについて特に何かご発言があればお願いしたいと思います。</p>
村上委員長	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい、村上委員長。</p>
村上委員長	<p>はい。教育委員会の中でも色々議論をさせていただいて、これは基本条例として作ってパブコメは1件もないということだったんですが、やはりこれができて、この内容をきちんと教育委員会が遂行しているか、という厳しい目は多分あると思いますので、冒頭にも申し上げましたようにこれの具現化－具体的にどうしていくかということについては、少し考えていきたいな、というふうに思っております。</p> <p>それで、木和田先生のお話もありましたが、教育委員会のフロンティアというので、全国市町村教育委員会連合会会長さんが、少し「教育委員会の……」ということをおっしゃっているところに「教育委員の役割認識や責任意識をいかに掘り下げていくのかという内なるフロンティアへの対処。」で、「教育委員は一様に非常勤職員である</p>

	<p>とはいえ、一般住民の意向を教育行政に反映するという教育委員会制度の存立意義を体現する担い手という役割を担っています」で、2つ目が「すべての自治体で新設することとなった首長招集の総合教育会議を『いかに機能させていくか』という周縁フロンティアへの対処です。会議運営を工夫しながら首長と教育委員が自治体の総合的な教育施策について協議し、推進していくための原動力となりうる場」という形でありましたが、いみじくも本当に1つ目の教育委員の役割認識・責任意識というものが基本条例に議論の間に散りばめられたのかな、と今となっては思っております。あとは文言一特に市民からの政策提案ですとか、先日、市議会議員の先生方とも意見交換したんですが、そういった色々な声を聞くという場を設けるというのをいかに具現化していくかというのが私たちに課せられた、これから教育委員会に課せられたことかな、というふうに思います。以上です。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。他にありますか。</p> <p>はい。では、特に無いようですので、これについては先ほどもありましたように条例ですので、議会に上程をするということになります。この案で上程をしていきたいと思っておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。</p>
村上委員長	<p>お願いします。</p>
山田市長	<p>2件目の議題についてですが、木和田先生の方からもし何か特にあれば。</p>
木和田校長	<p>特にありませんので。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題の3「平成29年度以降の協議事項について」ということで、事務局の方からまず何かありますか。</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい。それではお願いいたします。</p> <p>これまで2年間一昨年度・今年度につきましては、教育大綱そして教育委員会基本条例と、この2つを中心に議題として協議をいたしました。この2点につきましては、本年度中にそれぞれ完了するという見込みでありますので、来年度以降のこちらの会議におきまして、テーマにつきまして事務局といたしましても整理したいという意向で議題に挙げさせていただきました。ちなみに法律上の協議事項の案内なのですが、1つ目が「大綱に策定に関する協議」。2つ目が「教育を行うための諸条件の整備、その他、地域の実情に応じた教育・学術及び文化の振興を図るための重点的に講ずる施策」というふうになっております。3つ目が「児童・生徒の生命又は身体に被害が生じ、またそれがいるときの緊急の場合に講ずる措置」というふうになっております。主にこの3つが示されているという状況でございますが、来年度に向けてご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。</p> <p>来年度以降……。要するに今の説明は、総合教育会議の話をしただけでしょ、今？</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい。それと法律上の3つの協議の内容があるということです。</p>
山田市長	<p>「大綱で」ということ？</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>いえ、「総合教育会議で」です。</p>
山田市長	<p>だから「総合教育会議で何を議論するのか」という説明をしただけでしょ？</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい、そうです。</p>
山田市長	<p>「これをやりましょう」と言ったわけじゃないね。</p>

事務局 (松田企画広報課長)	ないです。
山田市長	<p>はい、わかりました。</p> <p>僕から少し問題提起させていただきたいというふうに思っていますが、まず1つは大綱が策定されて、来年度に教育振興基本計画の見直しというか、そういうタイミングになるんです。ですから、当然、その大綱の方向性を踏まえた振興基本計画への具体策としての落とし込み。これをやはりしっかりこの場でも共有化していかなければいけないと思っています。</p> <p>それから、2つ目としては、「教育改革」ということで、かつては「教育のまち 犬山」で取り組んできた様々な取組みがありますが、一定の時間の経過とともにやはり当時の狙いや目的というのが現状においてどういうふうにも成果として上がってきているのかということ、検証しながらこれからの犬山市の学校ということになるかも知れませんが、学校運営の方向性をもう1度ここでしっかり考えていくタイミングにあるのではないかと考えていますから、「教育改革への検証」と、それから「今後」ということはやはりテーマとしてやっていく必要があると。</p> <p>それから、これも絶えずやっていかなければいけないと思うのですが—これも教育委員会で皆さんに議論していただいていると思いますが、人口の動向というのはやはり絶えず変化していますので、学区の問題等、人口の変動に関わる問題について—これは絶えず毎年注視していかなければいけない課題だと思いますから、これは継続的にしっかりこの場でも議論をしていけるといいな、と思っています。</p> <p>それから、4点目になりますが、実は議会の一般質問でも議論があったのですが、教育委員会としてやっていかれるのか、この総合教育会議でやられるのか、そこは少し今後の調整があると思うのですが、「民間の教育者との意見交換の場を設けたらどうだ」という意見があって、私はやはりこれからの公教育のあり方を考えていく上では、視野を幅広く持つていく必要があるだろうと。これは実は市役所の中でも言っているのですが、先進的な自治体の取組み高校教育の中でも先進的な取組みをしているものへの検証であったり、或いは民間の取組みの中で先進的な取組みをしているものを情報としてしっかり吸収していく必要があるだろうと。定例教の中でも皆さんの活動の中でも—先ほども奈良でしたか、とか既に取り組んでいただいているものがありますが、少し総合教育会議の中でも私もそういった情報交換をしたいと思っていますので、民間の教育者との意見交換も含めてそういった取組みができるといいのかな、というふうには思っています。</p> <p>それで、少し教育振興基本計画に絡むかも知れませんが、私も「授業改善」ということをテーマとして非常に強く持っているものですから、大綱の趣旨を踏まえて「授業改善」がしっかり進んでいるかどうかは、総合教育会議の中でも少しどこかの場面で議論できればいいな、と思っています。</p> <p>それから—たくさん言って申し訳ないですが、教育だとか保育というのは、子ども未来園だとか現場では皆さん、それぞれ本当によく考えて色々な取組みをいただいていると思います。ただしそれがもっともっと広く皆さんに見えるようになって、皆さんに上手く伝わるといいね。ということで、これは条例の趣旨にも関わるかもしれませんが、やはりそういった教育だとか保育の取組みの伝え方や見せ方だとかそういったところのチェックであったり議論というのは、少しやっていきたいな、というふうには思っています。</p> <p>それから—あと2つありますが、1つは「教員の多忙化」の問題は、やはりここは少し我々も考えていかなければいけないと。教員だけではなくて、子ども未来園も色々</p>

	<p>な保育士も問題を抱えていると思いますが、やはり現場の仕事のあり方というのを少し考えていかなければいけないな、と。これも先進的な事例があるのか、どういう形があるのか、今はっきり答えは見えないのですが、いわゆる現場の生産性をいかに高めていくのかということです。ワーク・ライフ・バランスも含めた生産性の向上というのは、恐らく今後重要な課題になるな、というふうに認識をしているので、この「多忙化の問題」についても少し着眼をしていきたいと思っています。</p> <p>最後に「いじめ」「不登校」「貧困」「子どもの権利」そういった子どもたちを取り巻く環境の中でも、しっかりそういった子どもの命に係わるような部分の取組みを少し色々この中でも議論したり、情報共有したりしていければいいな、と思っています。</p> <p>今、かなり何点かの観点で申し上げましたけれども、少し学校教育にウエイトが偏っているかも知れません。当然、文化・スポーツの関連であるとか歴史まちづくり課の取組みであるとか、そちらの関係もありますので……。</p> <p>もう1つあえて言うとしたら……。歴まちの方で言うと、今後歴まちの今の施設の中でも東之宮古墳の整備であるとか、からくり館のリニューアルであるとか、さらに言うと犬山城の史跡の指定の問題であったり、門や櫓の復元も視野に入れた城山の整備の方向性—歴まちの取組みの中には、かなり大がかりな事業も予定されているので、当然それは今後のまちづくりであるとか或いは内容—単に保存ではなくて、活用というところに視点を置いた取組み、そういったところもやはり注意していく必要があると思うので、そこは少し気に留めて、総合教育会議の中でも色々意見交換をしていけるといいな、というふうには思っています。これも少し観点として付け加えておいていただきたいのですが。</p> <p>少し私の方から長々と申し上げましたが、そのような点を今、思っています。皆さんの方からも「こんな観点でこの場で議論を深めていけるといいよね」という点があれば、是非この際、皆さんの方から幾つでも構いませんのでどんどん出していただきたいと思っております。</p> <p>あと、あれもありますね。児童センターのあり方も子ども子育て会議—皆さんご存知ですね。児童センターが今度学校の方にシフトさせていくとか。或いは保育園—子ども未来園の今後のあり方を4つの選択肢という観点で検討しているので、今後そういった保育園の整備のあり方というのも庁内で議論していますので、こういった総合教育会議の中でもまた情報共有していければいいな、というふうには思っています。</p>
村上委員長	では。
山田市長	はい、村上委員長。
村上委員長	<p>本当にたくさん言っていた中で、私がこれからの議題というより、今、課題として捉えているという部分で、まず「振興基本計画」の方はある程度の時間を要するな、という気がしております。</p> <p>それで、前から市長さんが言っておられる「授業改善」というのは、これは現場—学校の色々な授業の仕方ということで、昨日の教育委員会会議でも、先ほど「民間の…」ということで学校にも色々な大学の先生においでいただいて、指導・助言をいただいておりますが、本当に私見を申しますならば、「自分の授業がいい」と思っている先生には、「いや、こんな授業もあるよ」「こんな授業もあるよ」と言って良い授業をいっぱい見せることの方が先決ではないですかと。生徒の食いつき方とかですね。そういうところにシフトしていく方がいいのではないですかね、と少し話題になったところです。こちらの方も総合教育会議で議題云々というのは、「ちょっとな」</p>

という感じは個人的にはしております。

それから人口減少による通学区域のことをおっしゃったのですが、これは城東中と東部中の通学地域を変更して少しバタバタとやらせていただきましたが、この間、中日新聞を見ていましたら、学習指導要領で、小学校にも英語が入ることになった時に一ご覧になったと思いますが、大規模校は別として、児童数がとても少ない学校があって、そういう学校では、先生と児童のマンツーマンのようになってしまい、児童同士での英語のコミュニケーションが取れないというようなそんな話がありました。

また、教員の多忙化は県の方で今、協議をしておられるのですが、教育事務所の先生ともお話をしていたのですが、奥村教育長の現役の頃は中学校が20何クラスというようなことで、今は本当に少なくなって教員も減っているので教務主任が授業を持ったり、校長先生が色々な資料分析したり、そういった部分が出てくると。その先生いわくある程度教員が固まるというのは、小学校……あれは3クラスでしたか、4クラスでしたか。小学校だと各学年に4クラスぐらいと言ってらっしゃいましたか、先生が。教科の関係で。そういうのが一番学校運営もそれから先生の数も色々な面で本当はやりやすいんですけどね。と言われたのが非常に頭に残っております。それから教員の多忙化は、本当に切なるものだと思って、私どもも学校訪問に行くと副教材を使うなら使う。プリントを作るなら作る。両方は先生一少しでも楽に…と言っては変ですけど、生徒を見る方に時間を費やしてというような形でお願いはしているところではあります。

それから「いじめ」「不登校」「貧困」というのは非常にあれなので、できれば一もしやるとしたら犬山市全体として情報絡み一子どもに関して。昨日もLINEだとか色々な話になったのですが。教育委員会や学校や家庭が言うといっても、なかなか限界があるので、「今の中学生は誰の言うことを聞かだろ」というと「きっとお友達の言うことだよ。じゃあそれなら身内同士で議論させてもいいよね」と少しこちらが何か喫緊の課題で、それこそ民間の色々な危ない事案なんかを知ってみえる方を呼んでやるとか、そういったこともいいかな、と思っております。

それから、すみません。おっしゃった歴まちのところは、学校の意見の中にも文化の関係で「少し触れているのが少ないのではないかと」。先日、奈良に行った時に『総合奈良』ということで世界遺産学習の推進ということで、色々な小中一貫教育をやっておられるところはやっておられます。副読本の作成と配布一これは犬山も配ってやってみえますが。それから修学旅行では京都の国立博物館に行って、東之宮古墳の非常にあれだけのたくさんいいものを見ていただくという機会をやったので、そういった犬山ならではの部分もこれから色々なことで一犬山祭だけではなくて、いくのかな、というふうに思っております。私自身は民間の方たちとの色々なというのがあったのですが、役所はともすれば民間の専門的な人が入るとおんぶに抱っこになる可能性があるんで、少しそれは……半分危険もあるかな、というような。やはり行政や学校を知っているのは教員であり行政ですので、少しその辺りを思いまして、私としては喫緊の課題は先ほどの情報の危ない部分とそれから人づくりということで、人材育成。教員の不祥事も多いです。あとは期待の意見の中に「市長部局と教育委員会が連携をとれるということが良くわかりました」ということなので、今まではけっこう学校とか教育委員会は閉鎖的なイメージがあったのですが、もう少し色々なところと市長部局の例えばごみ収集の方に来ていただいて、「こんな悩みがあるんだよ」とかそういったことをやっていくと、反対に今度一失礼なことを言いますけれど、人事異動で教育委員会事務局にみえた時により学校が身近になるかな、というのは思ってお

	<p>ります。それからあと、こんなことを言っただけですけれども、市長さんにはお願いは、子ども未来課も所管になって施設が非常に教育委員会には多くなりました。学校、それから公民館、それから児童センターと未来園。非常に施設が多くなってちょっとこの場で申し上げていいかわからないですけど、専門職員の方が一人もいないな、と。で、歴まちも結構建造物の色々な部分があるので、少しそれが私は個人的にこれからそういった専門の方の眼。職員の。「それが必要なかね」と少し昨日の教育委員会で色々話題になりました。素人では限界があるので。市長さんのことをいちいちあれをいうつもりはないのですが、個人的に思ったのは、そのくらいです。</p>
山田市長	<p>はい。他に何かありますか。「こんなことを来年度以降、総合教育会議で話し合ったらいいんじゃないの」というテーマですけれども。もし発言があれば。</p> <p>はい、千葉委員。</p>
千葉委員	<p>はい。やはり人口による見直しというのは、各学校は本当に老朽化しているものから、そこへ例えば1億のお金をかけるのであれば、統廃合という形でそこへ少し割増しをして、新しい学校を建てることによって一確かに「うちの学校が無くなる」という地元の反対もあることはわかっています。でもやはりそういう新しい施設で「こういうふうになっていきます」ということをポンと出してしまえば統廃合も上手くいくのではないかな、とは思っています。以前、小浜市のところでそういう学校を視察で行った時に見せていただきました。すばらしい学校ができていて、地域の反対もそういうのではないみたいなんです。だからそういう意味で修理修理ということもいいんですけども、何かを貼って繕うだけのような修理では根本的な改革にはなっていないので、そういうのはやはり市長さんをお願いしたい点かな、と思います。</p> <p>あと、民間の教育者会議。やはり予算にも限度があります。だからあとは知恵です。色々な知恵を持ってみえる方を上手に使うという言葉は悪いですけど、そういうお知恵をお借りして、人間の力で……日本人はやはりいいものを根底に持っていますので、そういうカーこの大綱にも出てきた犬山の自然だとかを敬う心だとか、やはりそういうものを使っていい工夫ができないだろうか。それも教育の現場、保育の現場、色々なところに出していけないだろうかということを私は思っています。例を挙げると子どもたちが落ち着きがない。姿勢が悪い。色々なことを踏まえたら授業の10分前に、私が前から言っている立腰（りつよう）の姿勢ではないですが、そういう静止をして一歩置く。そういうのを1つ一お金はかからないんですよ。一それを入れて静止をして、落ち着いた心……。漢字テストをやる英語の単語のテストをやるんじゃないかと、そういう無になれるというか、何かそれを入れて取組むとか、それはお金はいらないんです。だからそういう知恵も色々な意味で出して行って、総合教育会議の場でやっているとまた活かせるかな、と。私はそう思っています。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にここでこんなことを話し合ったらいいんじゃないかと。</p> <p>はい、田中委員。</p>
田中委員	<p>はい。お願いします。市長が申し上げられたことが8点か9点ぐらいあったのかな、とちょっとわかりませんが。最初の1点、2点目のところで、やはり基本条例、大綱策定をして、その具体化をどうしていくのか。振興基本計画として具体策をどうするのかというところを確認していくというのは私も第1だと思っています。</p> <p>2番目に挙げられた「教育のまち犬山」としての検証。今後やはり私も重点的にやっていきたいな、ということでおっしゃる通りだと思っています。</p> <p>全部挙げていくとあれなんですけど、例えば授業改善のところではいいですよ、基本</p>

的に授業については、現場の先生たちがどう思っているのかというところが、恐らく問題課題。こうすればもっとできるというのは、現場の先生方も恐らく思っているはずだと思うんです。ですから我々がすべきことは授業改善のための条件整備が果たしてきちっとできているかという議論はここでやる意味があるのかな、と思いますし、授業改善については現場の先生も研修であるとか研究会で本当にたくさんやられていて、そもそも学校の現場の先生たちが一彼ら自身がやっている活動が本当に有意義なものになっているか。前回の教育委員会の会議で「学力テストをどうするか」ということの議論があったんですが、そのことについても「教育委員会が」或いは「総合教育会議が」というよりもまず現場の先生たち自身で振り返っていただきたいな、というのが私が思っているところです。

それから人口変動のところで、学区の一統廃合という話も先ほど出ましたけど、私は学校訪問を今回させていただいて、やはり小規模の学校の魅力を私はどちらかというとすごく感じたところで、そもそも少人数学級というか究極の少人数学級になってしまいますけれども、そこでの学びの姿一子どもたちが非常に生き生きとしていて、すごくいい姿が見られたな、と思いました。この大綱とも関わるんですけども、一方でやはり『創る』というところで、人口を増やしたいといいますか、次世代を増やしていきたいというようなことがまず大前提にある中で、では次世代が暮らすためにどうするか。世代の担い手を育てていくためにどうするのかという議論をここでするのであれば、学校の統廃合という形も当然議論としては出てくるのかも知れませんが、恐らく小規模校の場合は、以前のままの校舎で老朽化をしていくと。機能的に必要以上、過剰な設備の環境があって、ランニングコスト一維持費が非常にかかって、無駄も多いということは、それはその通りだと思いますので、今の人口の現状にみあった程度の施設・設備の維持の方法というのは考えられないかな、というのを思っているところです。将来的にはもちろん希望は今の非常に小規模で複式学級があるようなところにも、将来的には犬山ももっと人口が増えていってどの学区もどの校区も生き生きとした……というのを姿をもし想定するのであれば、一度潰してしまったら、その地域の学校は終わってしまいますから、その議論までいくのかどうかということも少し時間をかけて話し合っていければな、と思います。

山田市長	はい。ありがとうございます。ほかにありますか。
高木委員	お願いします。
山田市長	はい、高木委員。
高木委員	これからの協議事項ということで、市長が一私が今見たら9点ぐらいにちょうどなりました。学校教育で7点。それから歴まち・文化スポーツのもので1点。それから子ども未来課ので1点。合計9点ぐらいかな、ということで。これからの協議事項ということで1つずつ検証していければ、今後の総合教育会議の課題にはなっていくのかな、とは思いましたが、1点だけ少し加えさせてもらうなら、今、少し話がでていますけれども、人口減という話はやはりどうしても見なければならぬと思います。昨日の定例教の中でも今後の10年間ぐらいの犬山市の学校整備計画というのをちらっと一深い議論まではいっていませんけれども一ありましたけれども、生徒数・児童数が確実に一出生数から逆算していくとはっきりしている……転入とかはもちろんあるとは思いますが、そういうことも踏まえた、整備計画一10年なんですけど、本当はもう少しいるのかも知れませんが、とりあえずその10年のところでそういうふうなものを見直していくということになると、やはりソフトの一先ほどの授業改善とかも1点とこのハード面の検討というのは、十分していかなければいけないと思

	<p>いますし、そのこのところを教育委員会の中で揉んで、この場で話題に挙げて情報共有して、10年後、20年後の教育改革ということに向けたことをしていくのがこれからの一来年1年かけて2年かかるかも知れませんが、していくべきことだろうな、ということをおもいました。</p> <p>市長はわかってみえるのでいいですが、また学校教育と同時に今言った歴まちとか子ども未来課のことも含めて一緒に合わせて進めていきたいな、という感想ですか、意見です。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>奥村委員。</p>
奥村委員	<p>私も今、高木委員が言われたことと同じように学校の統廃合に向けての一目先のことでなくて長い目で見て、これは例えば1つの団地がどこかにまた開発されてしまったらまた変わってしまうので、これは教育委員会だけで話すことではなく、市と一緒に方向性を見ていければということをおもいました。ですからそういった学校の統廃合ということが一番僕は大事な、ということをおもいます。</p> <p>2つありますけど、もう1つ、大綱がせっかくできて、「作りました」というだけでここで終わってしまっているのかな、というのが僕はすごく疑問に思うところで、パブリックコメントがゼロということが、いわゆる市民の方にどこまで浸透できているのかどうか、ということ。やはり興味のある方は、正直、これがなくても担い手となってきていると思うのですが、やはりこれを打ち出すのは、市民一人ひとりすみずみまで行きわたらせるためにどうすればいいのか。例えば各学校で配布するだけで終わるものなのかどういったところまで……これを見ていただくためにどうするのかということがとても1つ大事なのかな、と。ただ、見せて「作りました」では、今まで作った分のかけた時間も無駄になってしまうのではないかな。絵に描いた餅にならないためにどうやって打ち出していくか。反応をいただけるのかということをおもっていかなければいけないのかな、ということをおもいました。</p> <p>最後に1つ。「いじめ」についてですが、今、冒頭にも話がありました「いじめ」ということについて、LINEとかスマートフォンについての「いじめ」等が最近どんどんありまして、先日東部中学校の講演会の中でもそういったものの問題もありました。今後、学校だけでは解決できない大きな問題になっていく一命にかかわる部分が非常に大きい1つかとおもいます。これは、各家庭、それから市民の方、皆さんが協力し合ってそういったところをどうするかということをおもっていかないといけない部分かなということも一村上委員長が最初に言われました、自分たち一私たちが何かをするというのなかなか難しいこともあって、「子どもたちが」というものがありますが、やはり大人も一緒になって何かを考えなければいけない。犬山市の中では絶対に自殺者を出さないようにするためには、やはり危険意識を市民の多くの方に持っていただくために、先ほどの大綱と同じなんですけど、いかにそれを理解していただくために広めるにはどうすべきかということをおもって少し考えなければいけないな、とおもいました。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>大綱は作り放しではなくて、正にその後の展開が重要なので、やはりこの趣旨を踏まえた振興計画なり、それぞれの担い手にどうやって反映させていくのかというのは、非常に重要な部分なので、振興基本計画というのと、また計画の話になってしましますが、アクションのところそれぞれどう落とし込むかということは、考えなければいけないでしょうね。別個に別個にというか連動して。それで「振興基本計画を見直</p>

しましよう」というと、またそこでワーッと議論するんですけど、でもやはり出来ることからやっていくということが大事だと思うので、担い手の中で、「今すぐできることがあるでしょうか？」と。或いは「ちょっとこれは検討して時間をかけてやっていかないとだめな部分があるでしょうか？」と。そういうものはある程度全体として整理をしながらやっていくことが大事だな、というふうに思いますから。非常に重要なご指摘だと思っています。

それから少し統廃合の話があれこれ出ているので、少し一僕がさっき学区の問題を言ったので、そういう話になったかも知れませんが、実は僕は田中委員に非常に近い考え方として、例えば小規模な地域になると、「もう統廃合でやめてしまった方がいい」という議論がありがちなんですけれども、そこをもう少しこらえて、小規模校だからできることというのをもう一度考えてみるのが大事な、と思っています。併せて、定住という一もう一方のこれは教育とは違う定住促進の観点で、里山地域の定住ということ、これは総合計画の中でも打ち出しをしているものですから、少しそこを頑張っていきたいな、というふうには思っているんです。ただ、もう一方の観点として、そうは言っても子どもが育つ環境として本当にそれがいいのかどうかというところをもう一方で見ないといけないので、ここでどちらに行くとかではなくて、現状の中で少し頑張る努力もしたいという気持ちも僕はそういう思いを持っているということも頭に置いていただきたいな、というふうに思います。ただもう一方で子ども未来園に関しては、ちょっと違った事情もございまして、これについては色々今後、園のあり方は考えていかなければいけないだろうというような課題認識は持っていますので、少しその辺りを整理しながら考えていけるといいな、というふうに思っています。

いじめの問題はまた後で、この議題が終わった後、「その他」のところかどこかで一自由討議か何かで言えるといいな、と思っています。重要な課題だと思っています。はい、どうぞ。

奥村教育長

はい。(3)の協議事項についてどんな点を来年度からという観点になると思います。先ほど事務局の方から話がありましたように、総合教育会議で何を協議・調整するかというのは、「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について」の議論をやるのが総合教育会議だと思うんです。もちろんテーマはたくさんあるものですから、今、市長が言われたように、9点色々な点を一どの部分でどういうふうに議論するかということも、もちろん事務局も含めて「精査しながら」ということになると思うんです。全てが関心ごとであるし、全てが課題だということは思います。結局この「学びのまちづくり」という観点に立っていかなければいけないというのも間違いない話だと思うんです。先ほど来、「教育のまち」という話題が出ましたが、「学校教育のまち」から「学びのまち」の方に動いてきているわけです。今、4課一歴まちと文化・スポーツとそれから学校教育と未来課。その4課が揃った中で子どもたちや人を育てていくというところの「学びのまちづくり」という議論をしないと、「学校教育のまちづくり」ではないので一無いと言ってはいけません。それは大事な部分ですけども、そういう観点に立って、「学びのまちづくり」という方向性の議論一施策を議論しないといけないな、というふうに思いますので、このたくさん出たうちのどの点でスタートを切るか。振興基本計画はとても大事な部分だと私も思っているんですけども、そういう観点に立った上で、現場に任せていくことと、それから各課の事務担当がやっていくことと、その事務担当を含めての課題のあるところをここで議論するというのを積み上げながら一という部分と場合によっては「これが課題だ！」とやらなければいけない時もありますけれども、そういう観点に立った時にたくさんある課題の

	<p>うちに一繰り返しになりますが、振興基本計画の方はきちんとやらなければいけないというふうに思いますけれども、そういうようなことをやって、現場で議論すべきことをここで全て持ってくると多分(年間)4回では済まないくらいのペースになるので、やはり絞りながら議論しながら「学びのまちづくり」という4課の議論をここでやるのが大事な、というふうに私は思っています。しかし、議題になりやすいのは、その中で「どれだ」という選択肢もあると思いますから、そういう観点でやっていくことが大事な、と思っています。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。重要な部分だと思います。やはり「学びのまちづくり」という方向性を掲げたということは非常に意義深いことだというふうには思っていますから、今、おっしゃったような4課の広い観点で組み立てをどうしていくのか、というところだと思いますので、そこら辺も少しバランスを持ちながら、学校教育だけに特化せず、非常に重要な観点だと思います。今後その点を考慮してこの会議の中でやっていきたいというふうに思います。</p> <p>紀藤委員、いいですか？</p>
紀藤委員	<p>はい。自分の頭の中でなかなかまとまっていない部分がたくさんあって、発言を控えていたんですが。僕自身も「文化・スポーツ」という大きなテーマを掲げてやっていく必要があるのではないのかな、と思っているんです。先ほどの学校の問題もあるんですけども、統廃合してみると、小さな学校が大きくなるので例えば部活動ースポーツの部分、文化の部分でも増えて子どもたちは喜ぶだろう。でも小さな所が例えば集まってもなかなか上手く、そういう作用ができない所があると思うんです。例えばサッカー部は作れないけど、野球部とサッカー部の両方欲しい。では「サッカー部をやめて野球部にしようか」とかそういう話し合いになっていってしまうし、中学生の爆発的なエネルギーというものを上手く文化とかスポーツの部分にもっていくとすごく活気のあるまちが出来てくると思うんです。そうすると、例えばスポーツ表彰を受けた方がスポーツの部分で色々……「国体に行った人が指導してくれるよ」というような、そんなふうだとまた違うだろうし。また、犬山市は高校とも連携があるので、高校生と一緒に合同練習ができるとか、そういった大きなくくりで見ると文化・スポーツはすごく発展できるのではないかと思います。犬山って確かに僻地があって、距離的には遠く感じますが、そんなにむちゃくちゃ離れている僻地ー僻地という言葉も悪いですが、山を1つ越えればいいですよ。中学生が一生懸命自転車登って降りてという、そういう時に鍛えられるのと同じで、どこか拠点を作っていて、そういう所に素晴らしい指導者がいれば子どもたちは集まってくるし、さらに上に目指そうと思う子どもたちも増えてくるので、もっと大きな「学びのまち」ということで、みんなが繋がってくるー地域の人が。そんなものができるような話し合いができるといいな、と思っています。そうしないと「こことここを一緒にするよ」なんていうと、またウワウワウと揉めたりすることもあるという。みんなで何かをやっていこうという……。枠を超えていこうというのは、多分子どもたちからだろうと思うんです。やはり歳を取ってくると枠の中にはまっけて、そういうことは……。でも、海外の交流も同じで、みんな出て行ってしまっ、交流しているー民間交流が盛んなのに国が仕切りを作る。どこかでは壁を作ろうみたいな感じになってしまうのと同じで、本当は壁をみんな超えているんですね。ですから学区の狭いところにおさまっているのは大人たちかも知れないので、大切にしたいものー小規模校だからできる。それを大切にしながらも、スポーツとか文化の部分になったら、少し広いところに出られるとか。そんな状況を例えば土日を上手く利用したスポーツ・文化の取組み</p>

	<p>とか、そんなものができてくるとこの大綱も生きてくるのではないか『学ぶ』『繋がる』『創る』というこの3つの表現がぴったりするのではないかと思いますので。10年後、20年後を見据えながら、多分、今の地域を大切にすることということも絶対大事なわけけれども、より広い人たちとの交流—多分野の交流があるだろうし、多文化の交流もあるだろうし、そうすると、小さな子が……僕はいつも思うのですが、例えば犬山市はスポ少があって、バレーボールを小さい時にやっていて、そのまま中学校でもバレーボールをやるんですね。それで高校でもバレーボールをやりたいんだけど、実はバレーボールをやったら次に野球をやるとまた違った部分が出ていくんですよ。そういう色々なスポーツに触れられる、そしてその子の本当に伸びる芽を伸ばせるような取組み。きっとそれが花開くと大きな花が「学びのまち」になっていくのではないかな、と思っています。まとまっていませんけれども。</p>
山田市長	<p>いえいえ。重要な観点—大きな視点も重要ですし、文化・スポーツというところも当然、見ていかなければいけないと思うので、非常に重要だと思います。</p>
紀藤委員	<p>今でも学校へはたくさんの方の支援の人が来ていますので、さらにそれが増えていけば、教員の多忙化も違ってくると思うんです。人的支援も。</p>
山田市長	<p>そういったところを先ほどの千葉委員の話じゃないんですけども、知恵を出してどういうやり方をしていくと……課題はそれぞれあるけれども、「こういうやり方でいくとそれが上手くクリアできるよね」というのは知恵だと思うので、色々な取組み・情報などを集めてまた議論していけるといいんですけども。</p>
村上委員長	<p>1点いいでしょうか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
村上委員長	<p>名古屋市に住んでいまして、市民大学講座でしたか、あれは結構、本当に犬山は良い方と呼んでみえます。私も聞かせてもらっているんですけども、確かに受講する人は犬山市民とか犬山に住んでいるとかという感じではなかったですか。</p>
山田市長	<p>いえ、外から来てる人もありますね。</p>
事務局 (吉野教育部長)	<p>ありますね。</p>
村上委員長	<p>単発ではですね。ですから、もう少しあの辺りをPRするのと、それは市全体にお願いしたいんですけども、結構、私も通っているんですけども、平安通から犬山。犬山から平安通って便利なんです。ただ何かすごく遠いというイメージがあるから、「いや、都心まで何分ですよ」というのももっとやれば、私は一変な話、若い人が移り住む時に名古屋市ではとても無理だということ、だんだん周辺に行くんです。その時に、「小牧もいいけど、犬山はこうですよ」というのがあると、本当に住みたいまちになってくるので、名古屋のベットタウンと言っては失礼ですけども、「近いよ」というイメージがあまりに名古屋に住んでいてもなかったものですから、「案外近いんだ」ということを思いました。また、そういったとても素敵な色々な講師の人たちを呼んでいるのももう少し新聞社にお願いするとかして、本当に来たい人がいっぱいみえると思うので、そうすると「犬山さすがだね。文化だね。こんな人呼んできたね」というのも—こんなことを言ってごめんなさい。吉本もいいんですけども、今、高齢者の人というのは、結構文化的なものに関心があるので、そういったことでやると今度訪れたいまちで人が多かったんです。若い人たちではなくて。講演を聞けば「ちょっとあれを見ていこうか」という感じになるので、そういったことも市長部局の観光課になるのか何かわかりませんが、しかけてほしいというのと、今回、せっかく犬山高校や(犬山)南高校の先生たちともお近づきになれたので、少し高校生</p>

	と中学生とか色々な子どもたちと世代を超えた何か交流ーしかけみたいなのができると、せっかくの機会いただいたものですから、いいかな、と。
山田市長	おっしゃるように市民大学であるとか、子ども大学であるとか、カリキュラムもそうですし、参加者の人数も含めて犬山の取組みというのは、非常に良い内容だとーこれは私の立場で言うのもなんなんですけれども、非常にいい内容で展開して、それを作ってきた先人たちの努力というものが当然あるわけなんですけれども、そこをやはりー僕がさっき少し観点の中でも言ったんですけれども、もっと見えるように伝わるようにしていかないといけないんです。そして見せ方・伝え方というのは教育に関わることだけではなくて、先ほど犬山までの距離ー「便利だよ」とかそれもやはり犬山の魅力として発信ーもちろん発信はしているんですが、もっと見えるようにしていく。その工夫をやはり市をあげてーこれは教育だけではなくてー市をあげてやっていかなければならないということは非常に重要な観点ですので、是非、そういう所は我々も工夫したいというふうに思っています。そういう意味でも、まさに教育だとかー社会教育も学校教育も子ども未来園の取組みもどうやって情報を伝わるようにしていくのかというのも本当に重要なテーマだと思うんですよ。というのは、いい事やっていても知らなかったらやっていないのと同じになってしまうので。
村上委員長	「待機児童はゼロですよ。」と言われたら「すごいね」という感じで。
山田市長	そういうところが、やはり見えるようにしていくというのが大事ですね。そこもまた観点として……。 だいたい一回りしましたが、よろしいですか。あくまでも、これは29年度以降、今後、総合教育会議でどんな観点で協議していったらいいだろうか。という観点を洗い出しですので、今日、皆さんにざっくばらんに色々ご指摘いただいたと思いますから、そういった点を私どもとしてきちっと整理して適宜、そういった議題の設定をして、議論をしていきたいと思っています。 3点目について、木和田先生の方から何かお気づきの点だとかご意見があれば。
木和田校長	今、高校で一番問題となっているのは、アクティブラーニングの件も今後ございますので、授業改善と多忙化解消なんです。本校はその通りで、授業の準備のために多くの先生方が残って教材研究をやっている。本校は今年40周年になりますので、ある程度予算もありますので、それで「授業改善をやってしまおうか」ということで私も決めておりますけれども、AL室ーアクティブラーニング室を作って、そこを整備しようということで、例えばプロジェクターなんです。結局大学だとプロジェクターは当然あって、そこでパワーポイントで授業をする。小・中・高はそれが無いんです。授業と言ってもそれが無いから黒板に板書している。板書をしていると生徒が見えないです。結局、後ろを向くしかないの、先ほど村上先生が言われた後ろが見えない、生徒が見えない状態になります。そうすると例えば授業のことを作っておけば、生徒を見ながら授業ができる形になります。それで先週ですけれども、エプソンからいい機種がありますので、黒板に付けるプロジェクターということで、その機種を見せたら、やはりすごくいいんです。実は犬山の方でそれを宣伝に来ましたということで、犬山の教育委員会かどこかに行ってきて、それを取り入れるということで、うちは是非それを取り入れるとお話しして、7台、今年購入をするつもりです。7室その部屋があれば、黒板も使えてまたホワイトボードもあって、そしてそのプロジェクターがあって、先生方がパソコンを持って行ってすぐにそこで映すことができるということで、色々な形でのアクティブラーニングがそこでできる。また、書いたものについては、それをパソコンに取り込んでということで、すごくいいICT教育がで

	<p>きるということで、これが多忙化解消に実は繋がってくるんです。授業の改善もそうですし、本当に生徒を見ながら授業ができるということで、特に社会科の先生は黒板に全部書いて、それでまた消して全部書いてまた消して、次の授業でもまた書いてということで、ほとんど生徒が見られないような状態もございますので、その授業が全部改善されると、教材提示機がありますが、教材提示機で、教科書を見せて、また自分で色々な教材を見せて、それを生徒に見せて説明することもできるし、色々な工夫ができるんです。実は小牧市ですけれども、私が中学校の説明会に行って、USBを持っていくんです。そうすると、小牧市の中学校だと50インチのテレビとパソコンが用意してあって、そこに差しこんでプレゼンをやってくるんですけれども、それが小牧市はあるんです。でも犬山市に行くとそれが無いということで、是非そういうことで、ICT教育が本当に……。そうすると先生方がそれが当たり前になって多忙化解消にもつながるし良い教育ができますので……。私、今日まで全職員の面談をして、年度末反省ということで、「ちょっとこんなことをやりたいけども」と先生に話したら「先生、是非それをやってください。そんなことなら色々なことができますから」ということで、私は何としてもこれは今年1年でやるつもりでございますけれども、そういうことで、是非、来年度の議論の中にも授業改善という部分で、市長さんが言われたことは本当に大事だと思いますので、是非お願いしたいと思います。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。また、先生のところの取組みも我々としても色々参考にしながら、お互い高め合っていければと思いますので。ありがとうございました。</p> <p>では、議題の3については、色々ご意見をいただきましたので、そういった観点で、やっていけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>次に事務局の方からいいですか。特にない？</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい。今のご意見の中でまた整理をさせていただきます。お願ひいたします。</p>
山田市長	<p>では、自由討議ということで、この際皆さんの方から何かあれば、テーマを出していただいて、自由に討議したいと思います何かございますでしょうか。</p> <p>いいですか。僕は少し教員の現場というのは、そんなに踏み込んだところまではわからないので、そういう前提で問題提起というか……。</p> <p>今度の学習指導要領なんかを見ても色々ボリュームは増えるけれども「時間の捻出は現場でやってくれ」みたいなそういうところもあって、色々マスコミの論評なんか両面であるんですけれども、特に小学校ですと、なかなか英語なんかこれで本格的に入ってくると、現場の色々な対応の課題もあるのかな、という気がするのですが、プログラミングもそうなのかな？ プログラミングは中学校かな？ まだ</p>
奥村教育長	<p>小学校です。</p>
山田市長	<p>そうですね。そうなってくると、専門性がやはりどうしても求められてくるので、やはり小学校においても教科担任制的な取組みを考えていかないと、なかなか小学校の方も少し授業づくりに苦慮してくるところもあるのかな、という気もしてまして、それが教科担任制がいいのか、やるなら課題も当然色々あるでしょうけれど、従来の一今の体制に拘らずに色々な現場の運用のあり方も考えないといけないのかな、という気はしているんですけれども。</p>
千葉委員	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
千葉委員	<p>昨日、実は教育委員会の後に、唐突な意見を言ってしまったんですけれども、英語</p>

	<p>教育が小学校に降りてきますよね。「各担任が責任を持って」というような言い方を文科省はしているようなところがあるんです。やはり英語教育となると専門性が一番大事なんです。今、犬山には外国の先生が2校に1人ですか？</p>
奥村教育長	<p>5名です。</p>
千葉委員	<p>5名だから、そうですね。だから、そういう方の英語力を使って……、私は最初民間の力を借りようと思ったんです。というのは、ECCジュニアみたいな、色々そういうノウハウも持っている民間の……。でも「それはすごく高いよ」と聞いて「ああそうか。高いものはダメだわ」と。では、英語の先生をもっとたくさん配置して、生の英語で担任の先生はサブにつくような感じというやり方があるのでは……。そうすると多忙化も少しずつでも……。各教科を教えてそこへまた英語が来たら、本当に先生たちの事前の準備……。プリントで英語なんてやるものではないし、だからそうなるやっぱり本物の英語を耳で聞く。耳を育てるそういうことになっていくと、やはりそういう見直しもしていかなければいけない。お金も要る。だけどそういうお金は捻出できるものなら……。民間のタダでやれるものならいいんだけど、そんなものは多分ないから、その知恵も出していけないといけないな、と。先生たちの多忙化を減少させるにも。そういうものは、市長さんをお願いするしかないかな、と思ったんですけど。</p>
山田市長	<p>なんというか、現場の展開の中では色々なやり方というか、それをあまり現状の体制にとらわれ過ぎずに検討するのは、色々なフレキシブルに検討して、その中でどういうやり方をしていくのがいいのかというのを考えていくことが重要だな、と思うので、選択肢として、最初に検討する時にはあらゆる可能性一場合によっては民間というのもひょっとしたらありかも知れないですよ。お金の問題は別にして。だから、そういうことも含めて、やはり考えていかなければいけないと思います。</p>
村上委員長	<p>よろしいでしょうか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
村上委員長	<p>民間の力の知恵とかいうことも重要だと思うんですが、例えば情報なんかだとプログラミングという、どこまでのことを想定しているのかというのがわからないので。また、英語についても小学校のうちは……私たちは「グラマー嫌だな」というイメージしかないんですけども、無理なく単語どうして話せる、そういう雰囲気作りということであれば、民の力よりも中学校の免許を持ってみえる先生方もみえるので、そういうのでやればいいな、と。</p> <p>それから冒頭に、例えば小規模校で1人で先生とマンツーマンでコミュニケーションが取れないときは、英語の時間は「そこだけ行ったら？」とかいうような提案をしましたが。だから指導要領が出て「何が重要か」というところの段階段階で、私は高校ぐらいになればある程度民間の人が来てしゃべるのもわかると思うんですが、けっこう民間の方も慣れてないと話すことがわからないことがあるので、その段階に応じて力をお借りするというのは、いいことだとは思いますが。ですし、今、よく大学の情報学部の学生さんが、高校へ行ったりとか中学校へ行ったりとかというと、木和田先生が先ほどおっしゃったんですが、私が危惧しているのは、小中学校でも使いこなせる先生は本当に使いこなすだけけれども、使えない先生は「手で書いた方が早いや」という方も多分おられてその差が少しあり過ぎるのかな、と。ただそこで機器を入れても使いこなせる人はどんどんいく。そういう先生に見てもらえる生徒はいいけど、そうじゃないと「入れたか……」という部分があるので、色々な意味でのレベルアップ的なものが、少し情報教育に関しては必要なのかな、と。ただ、今、色々な民間も</p>

	<p>PRで色々力を貸していただけるものだから、そういう部分である程度高学年になったときに一戻りますがスマホの危険性だとか、色々な部分のことを民間の方に、知恵を持っている人に……という部分で有効かな、と思いますので、発達段階と何をお願いするかということをしちんと決めて民間の力を借りるということは重要なことだと思います。市長さんが「お金はこっちへ置いておいて」と言われたので、そういう部分でもう少し明確化したら、反対にいうと教育委員会から「この部分はちょっとプロの手を借りたいです」とか、「この部分はこうします」とか、そういうものが出てくるのではないかな、と。少し今、雰囲気的に文科省が何を狙っているのか。オリンピックでみんな英語をしゃべるようにしたいのかな、と。</p>
山田市長	<p>まずは、やはり情報が重要だと思うので、実際に何をしていくかという段階は予算的な側面を考えたりとか実務的な部分を検討しなければいけないですけども、最初の出だしのところは広く可能性を考えたい方がいいと思うので、その時にはやはり民間の色々な取組みの情報というのを幅広く我々としてはアンテナを高くしてキャッチしていくと。その中で可能性を検討していくわけですから、そこから実務的なところに行く時には「これは少し犬山には合わないよね」というのは当然、そこから外れていくわけなので、最初は間口は広くしていけるようにはしたいな、と。少し、今、自由討議で「教科担任制」のことを申し上げたんですけども。</p> <p>もし、皆さんの中で他に「こういう観点で少し今後やっていったらどうだ」と一さっきの議題の3にも影響していく話かも知れませんが、自由討議ですから。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
紀藤委員	<p>義務教育に関して既に総合的な学習の時間での取組みで小学校では英語一遊びの中の英語なんです。「バーン」って言ったら蠅叩きでバーンと叩いてみたり、遊んだりしながら始まって、その時間数が増えてくるということなので、僕はやはりALTとか、その数を増やしていただける予算が取れば犬山市は伸びていけるような気がします。よりレベルの高いものができてくると思うんです。それよりも僕は……絶対小学校や中学校の先生が悩まれるのは、いかにその時間を確保していくかではないかな、と。「土曜日までやらなければいけないか？」と言っている学校もあると思うんです。考えているところも。そうではなくて、その時間を帯で取ったり……。でも5分や10分で取っているのは「今まで漢字テストをやっていたのに……」「読書をやっていたのに……」というのをそういう時間を「今度は英語に全部やっていくのか」ということになるので、そうすると今、低学年でもどんどん帰りが遅くなっています。だから、小学校1年生から6時間授業とかそういう状況に追い込まれてしまうのではないかな、と思うので、その時間の生み出し方なんかで悩んでいるだけで、英語教育そのものにはもう既に取り組んでいるので、あとは人的支援をしていただければやって行ける気がします。「国際交流のまち」でもありますので、そういう意味でいくと色々な方がいてそういう触れ合うところを設定していけばいい。それには時間だろうな、と。そんな思いをしています。時間を生み出すというのは24時間しかないもので、これは何ともならないな、と。そうするとより効率的な学習かなと思って。国語力もつけたいから読書の時間も作りたいし、英語もやりたいし、計算力も付けたいし……と言われるともうパンクするのは先生ではなくて、子どもの方になるのではないかな、と思います。</p>
山田市長	<p>場合によっては捨てられるものがあればね、何かを少しおろそかにしてでも……僕は国語だと思っているので、とことん国語。国語だけとことんやって、あとは「ついてくる」という考え方ですけど。いずれにしても少し時間を捻出していくのはなかなか</p>

	か……
紀藤委員	お金も出してもらわないと……
村上委員長	さきほど市長が言われたみたい小学校の教科担任制というのは、そもそも論で教員免許が……。今、免許がない人は1人で授業に立てないです。必ず教員免許を持っている人とペアでないと。それなのに道徳は一道徳という免許はあれなんだけど、情報だの英語だの……と入れて「え!？」、小学校だと全教科やらなければいけないのにとこの部分があるので、もう少し文科省も「机上の空論」—という言い方はひどいかもわからないですけど、もう少し学校の実情を見て色々施策なり考えて欲しいな、と思います。道徳についても非常に……「どう評価するんだ」と悩んでみえるし。先ほど紀藤先生が本当に学校5日制の中で「どれだけ圧縮してやっていくのか」というので、何か次から次へと出してくださるのはいいんですけども、で、定数は議論になると毎回「切ります、切ります」というような話が新聞に出ると、都市部の東京辺りの部分の実情だけ見てどんどんどんどんそうやってみえるのではないかな、という気も若干しているので、またこういうふうな総合教育会議で首長さん方が教育にもということに関わられたので、やはり文科省の方にある程度、「色々な学校へ行って、実情を見て下さい」と。「東京だけの学校を見てはだめですよ」というのを何かの折にいつていただきたいとすごく思います。
紀藤委員	多忙化防止も教員を増やせば多忙化防止になる。
村上委員長	ある程度は。
紀藤委員	だから小規模校も生きてくるし、大規模校も生きてくるし。教員の定数をもう少し増やせないのかと。
村上委員長	だいたい今、市町村がやっているじゃないですか、少人数学級を色々なところで。国や何かの基準以外に。それで少人数やっています。「教育の保障は国だろう？」って—若干過激な言い方ではありますが。
山田市長	比較的文科省の動きというのは、場当たりに方向性をその都度変えてくる……。さっきの道徳の話でも、道徳の授業というのも設けたら道徳心がつくというのは、とんでもない間違いであって、だったら「宗教教育を認めろ」と話なんですよ。学校教育の中で特定の宗教に関してはなかなかやれない。だけど道徳と宗教は切り離せない。そういうところには踏み込まずして「道徳」だと言って、これは少し僕も「道徳」ということに限らず、先ほどの話でも違和感がありますけど、言いたいことは言いたいですが……。前に石田さん（元市長）が中教審の委員になったみたいに、やはり中枢にちゃんとこういうことを言える人がいないと、中教審の委員でも何かどこかの業界の肩書がある著名な人が入って、実態をやはり知らない人が表面づらで議論しても空理空論になってしまうんです。ですから、そういうところが少し課題なので。僕もそれは機会がある時には、そんなことはまた言える場面があれば言っていきたいと思います。
村上委員長	是非。
山田市長	自由討議ですが、特に皆さん、無ければ。
奥村教育長	いいですか。
山田市長	はい。
奥村教育長	今、少し話題になったものですから。 結局、国の動き—機会均等だとか国が責任を持つのは当たり前の話なんですけれども、大事に議論しなければいけないのは、犬山の学力観をきちんと何を持つかということなんです。ずっと「犬山の子は犬山で育てる」という「学びの学校づくり」の施

策をやってきた『目指す子ども像』の中にある学力観は『自ら学ぶ力を身に付ける子ども』という学力観で、全14小中学校動いているわけです。それに検証を加えながら、犬山の学力観を大事にして、「どうやって授業実践していくか」ということの授業実践の積み重ねだと思っているんですよ。そういう学力観をきちんと持って動いていくということをやらないと、国の色々なことが出てきますけれども、その議論のベースもあるけれども、「犬山の学力観は何だ？」ということを考えてみると、現在続けている『目指す子ども像』の『自ら学ぶ力』という学力観の中身をやはり各学校がきちんと押さえながらやっていかないといけないな、ということは思います。

それから多忙化の話になってくると、どうしても人の手当という話にならざるを得ない部分があるんですね。先生方の意識改革も必要だと思います。ただ授業を作ろうと思ったら、本当に明日の授業を作るためには今日も勉強して明日も勉強して、新任の先生というのは、明日の4時間、5時間の授業を毎日作っていくわけですから。そういうことを考えてくると、それも大変で。そうすると時間をどんどんたくさん作っても授業準備をするということが多いわけで、そういうことを含めていうと、色々な子どもたちを色々な形で伸ばしていこうと思ったら人の手当をしてやる。犬山の場合は、余所と比較してはいけませんが、割と人の手当は市で随分やっているんですが、本来的にはもっともっと県や国がやるべき内容を今は財政的な部分も含めてご理解いただきながら、やはり犬山の子どもたちの幸せのためにはこういう手当をしていくんだということをやっておっていただいているので、その人の手当をどこでどうするかというものが今度議論が生まれてくる部分もありますけれども、そういうことをやはりやりながら先生方の多忙化をどうするかという話はそうなるだろうと。

それから学校の規模によって2学級、3学級のところで実際に先生たちが専門性を活かすということが出来るところはやればよいと思うんです。全部の学校はなかなか難しいかも知れない。ただ、そういう方向性を考えて進んでいる学校もあるわけで、やはり市長が言われるように、幅広くどういう方向で進んで行くかということは色々な方法を考えながらやっていくことが大事だな、ということは今、皆さん方の話の中で確かにそうだな、ということをおもいますし、逆に言うと現場に信頼される教育委員会でなければいけないし、現場を応援する教育委員会でなければいけない、というのは、これもやっていけるはずなんです。やってきているんですけど。現場を随分ほぼ全部の学校を皆さんに見ていただいていますので、そういうことがやはり大事なかなと。以上です。

山田市長

今、多忙化の関係だと、やはり人的な体制というのも重要で、我々の犬山市独自の取組みでは、やはり限界も出てくると。今まで、議会でも我々市としても国とかに対して、市長会とかで要望したりしているじゃないですか。県も県・市懇談会もあるので、そこも含めて入れておいてください。人的体制を県も国もきちっとやれということをやったり我々は絶えず言い続けなければいけないと思うので、それは何かそういう……。国だけではなくて県に対しても。また言う機会があれば、少しそういう項目も入れるように。

それからもう1点、今、「学力観」というものが非常に重要で、やはり犬山の子どもたちの学力というのは、別に「英語がしゃべれるようになったから、あなたは優秀ですね」という話ではないんです。だから、「どういう学力観を身に付けさせていくのか」という、そこが非常に重要なところで、それがこの大綱の精神であったり、それがやはり今、教育長からご指摘のあったような点を具体的に取組みとして現場に落とし込めるようにしていかなければいけないと思うので、ここは今後の振興計画の中にも学力観というところは我々が求めていくものは明確に位置づけをして、それに基

	<p>づいた授業の組み立てをやらないといけないというところで、そこは少し振興計画を今後議論していく中では、ちょっと頭に置いていきたいと思っていますので、事務局の方で押さえておいてください。</p> <p>村上委員長。すいません。</p>
村上委員長	<p>実はすみません。「学力観」という言葉が……。今日、最初のところで「学び」という言葉がありましたが、あれは一時期前までは「学ぶ力」という言葉が盛んに使われた時期があって、今は「学び」という形になって、「学力観」という言葉が非常に一多分一般の人はわかりにくい部分があるので、そこをもう少し平たくしないと多分、学校の現場の先生方や保護者の方たちにも伝わらないな、ということと、あと学校を周らせていただいていることは、木和田先生がおっしゃったように、校長先生方に「たまには授業を見に行つて、『こうだぞ』『ああだぞ』って先輩だから言つたら」つて言う、「いや、とてもそんなことは言えない」つていう先生が結構多かつたので、これから「校長先生は先輩なんだからどんどん『こうしたら』『ああしたら』つてたまには先生授業をやつたら」というと、「いや、それはできない」とかと言われたので、「もう少し校長先生方も昔取つた何とかでどんどん参加して。そうすると生徒も見えるしどうですかね」という話はしているんですが、やはり先生方は1つの教室に入つてしまうと自分の授業で相手は生徒だけなので、なかなか自分の振り返ることができない。学年が一緒だとだいたい「この授業は前にもやつた」とか「何年生は前にも教えたことがあるな」だけど、教えられる子はその授業1回だけということで、もう少し管理職の方々も先生の中にどんどん入つて行くといいな、と思います。</p> <p>それから市長が今、「色々な機会に定数のことは言う」と言われたのですが、一宮の話でもやはり遊軍ではないですけど、各校に相談に乗れる先生が1人でも一担任や何かも持つてなくて一いればもう少し展開が変わつたかな、という気もするので、やはり動ける先生というとなんか変なんですけれども、何かあつた時にパツパツとできる一例えば教頭先生なり教務主任がパツパツと動けるならば、そういう人は本当に電話の対応とクレームの対応、パツパツと動くというようなそういう人がいるとああいう問題は起きなかつたのかな、と思つているんです。誰かのせいというのではなくて、それだけ学校がもう教員の数が少ないので、あちこちやらなきゃいけないといいので、結構あれもやる、これもやるというような、そういう恐怖観念が出てきていて、「忙しい、忙しい」つて忙しい実態がわからないまま何か残つているのかな、という気も若干しましたし、たくさん先生がいると生徒も相談しやすいかな、と。「あの先生は嫌いだけどこの先生は好きだよ」「あの先生なら言えそう」とか、そういうことも本當につくづく思つていますので、また是非よろしくお願ひします。</p>
山田市長	<p>市役所の中でもどうしても色々な市民の人からの相談対応の時などは、別にその職員が悪いのではなくて、目の前のことに追われていると、少し色々ポーンときたら相談に対してちゃんと向き合えないですよ。だから「忙しい」というのは、よく「心が無い」と書くとかと言うんですが、やはりその「ゆとり」が本當はあるといいんですよ。理想を言えば、ただどうしても財政的な側面の中で人的体制でどれだけでも人が配置できるか、と言えば限界があるので、そこを少し政策判断というか、やつていかなければいけないことだと思つているんですが、とにかく少し後で出そうと思つたのですが、「いじめ」でも他のことでも子どもが命を絶つてしまうということだけは、やはり何としても避けなければいけない。これは本當に一みんなそれは同じ気持ちだと思つていますが、そこをみんな注意しなければいけないでしょうね。これは少しおかしいのではないかとこのことに気づけるかどうかの所とか、さきほど村上さんがおつ</p>

	<p>しゃったように、なかなか相談できないとか、逃げ道—その子が命を絶たなくて済む逃げ道—というか、そこをどう作るかとか……。事務局、申し訳ないですがもう1度そこを少し色々な事例も検証して—事務局というか、教育長、それは各現場にもう一度よくお願いします。</p>
奥村教育長	<p>ちょっといいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
奥村教育長	<p>先ほど「学力観」という言葉を使ったので、なかなか「イメージ的に難しい」という話もあるわけですが、教育委員の皆さんは「学びの学校づくり2016」の施策をご存知なので、内容はわかってらっしゃると思いますが、紹介だけさせていただきますと『めざす子ども像』ということについては、『自ら学ぶ力を身に付けた子ども』ということを目指しているというのがあります。「『自ら学ぶ力を身に付けた子ども』というのはどういう子ども？」という時の本年度の方向性としては『基礎的な学力を身に付けて、家族や友だちを大事にし、地域を支え自分の人生を大切にするとともに、生涯にわたって自ら学び続けようとする資質や能力を身に付けた子どもです』という方向性で来ているので、これをさきほど市長がおっしゃったように、それぞれのところに落としていくという部分が大事な、ということですので。「学力観」という言葉を使いましたので、今、紹介をさせていただきました。</p>
山田市長	<p>中で使うものと外に見せる部分と、それは使い分ければいいと思うので、お互いに考え方に違いはないと思うので、外に見せるときはわかりやすく。中は専門的でもいいですが。</p> <p>少し時間もきておりますので、自由討議の方はいいですか。この際何かあれば。いいですか。では、自由討議の方はこれで終わらせていただきます。</p> <p>その他ということで、事務局の方からまず何かあれば。</p>
事務局 (松田企画広報課長)	<p>はい。1点お願いします。</p> <p>来年度の総合教育会議の開催予定であります。本年度は第1回を5月、第2回を7月、第3回を10月、そして第4回が本日2月でございます。来年度も同じような時期と回数をもって調整をさせていただきたいと思っております。つきましては、第1回5月の予定でございますが、また事前に調整の上ご案内させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。事務局の方からは今の1点だけだと思いますが、皆さんの方から何か特にあれば、ご発言を求めますが、よろしいですか。</p>
村上委員長	<p>5月ということで議題を早目におっしゃっていただくと教育委員でも協議して「これ」という形で絞らせていただきます。お忙しいとは思いますが、色々な部分で。</p>
山田市長	<p>また議題については、今日、色々何点か洗い出しをしましたので、その中から「これを先に」というものがあれば。(意見が)たくさん出たので、いっぺんに全部は無理だと思うので、ある程度絞りながらやっていけたらと思います。お願いしたいと思っております。</p> <p>木和田先生、何かありますか。</p>
木和田校長	<p>はい。また話題の方が英語の関係になりますが、高校で今、All Englishという授業をやりなさいということで、英語の先生は大変で、今、英語研修にそれぞれ各校で2人ずつ抽出して、とにかく全員研修、全県で今行っています。「All English授業をやりなさい」ということで、それがまたさきほどの小学校の話なんですけれども、本当に教科担当でも教科担任になるのはなかなか難しいところなんです。それで今、県の採用試験の方で、今年からですけれども小学校の採用試験は、「英語検定が2級があ</p>

	<p>ると結構優遇します」という形で、そうすると新しく入ってくる先生が「結構英検2級を持った先生が入ってくると教科担任ができますので、英語だけはやはりどうしても5年生・6年生については教科担当をやっていくと一番いいと思いますので、得意な先生がいれば教科担当ということで、そういうことでそれぞれの時間数もあると思いますけれども、やはり……。</p> <p>それからもう1つ。どうしても小中学校だと担任がいて、副担任というのがなかなか数が少ないと思いますけれども、高等学校だと例えば人数があると、本校でもそうですけれども、2人担任というような形で正担任・副担任がいるんです。それがあるので結構生徒の方がよく見えます。本校ですと1週間毎に交替交替で。そうすると2人担任制でよく生徒を見ていますので、いじめ問題等々にも即……大抵わかるんです。生徒の様子がよくわかりますので。それが少し高等学校と小中学校と違う部分がありますので、人的配置、それがやはり活きるということなので、是非教科担当—英語の教科担当を犬山市も考えていただいて。やはり英語はそうではないかと思いますので。また3・4年の言語活動もこれから入って参りますので。岐阜市は小1から—岐阜は特区ですので、小1から英語をやっていますので、</p>
奥村教育長	犬山もやっていますよ。
木和田校長	本当ですか？ それはすみません。勉強不足で。 是非、そういうことでお願いします。
山田市長	はい、ありがとうございます。 その他ということで、これも終わらせていただきたいと思います。 本日の議題も全部終了いたしました。これをもちまして第4回の総合教育会議を閉会とさせていただきます。みなさん、ありがとうございました。